

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570103067		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホームゆうあい のりさん家(1F)		
所在地	新潟市西区上新栄町4丁目4番地13号		
自己評価作成日	2023年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が居心地良く過ごして頂けるように一人ひとりのペースを大事にしております。好きなお手伝いや得意な手作業、歌を歌いながらの回廊や行事、レクリエーション等に参加して頂いております。利用者様同士の会話や職員を交えての会話も大事にしており日々笑い声が絶えないフロアだと思います。そんな中で笑顔のある暮らしが続けられるよう毎日支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市西区の住宅街の一角にある。自治会に加入しており、コロナ禍以前は地域の行事に参加したり、事業所の祭りに地域の方が参加したり、ボランティアの受け入れや地元の小学校生徒の受け入れなど地域との交流が盛んに行われていた。現在も地域の防災訓練に参加している。開設時は地域からの反対があったが、丁寧な関わりをもち、現在は地域に溶け込んでいる。

利用者の声に耳を傾け、思いや意向に沿った利用者一人ひとりにあったその人らしい支援が行われ、利用者、職員個々の関係性によった声かけが行われている。食事時間に間に合わない方は起きてから食事を行うなどその方の生活スタイルを尊重している。また、その方の得意なことが事業所で発揮されている。共用空間では笑顔の利用者の姿が多数みられた。

健康面では、協力病院の医師による定期的な訪問診療や法人の訪問看護事業所の訪問があり、急変時に訪問看護がかけつけてくれ、適切な医療を随時受けられる体制が整っている。感染症対策については、訪問看護から研修を受けて備える仕組みができています。

職員同士の連携がとられており、意見があれば随時管理者に伝えることができる。今年度から、本部の事務長が事業所の会議に出席し、現場の声がさらに伝わるようになった。また、管理者も気になった職員に声をかけて悩みを聞いたり、職員が利用者の支援により時間を集中できるようさらなる支援に力を入れている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内研修などで理念について職員同士で話し合い具体的なケアについて意識の統一を図っている。	開設時のメンバーがそれぞれのユニットで話し合ったものを出し合って理念が作られており、開設時からの理念を継続している。年2回の職場内研修で理念の再確認がされている。また、ケアに行き詰まったときに理念に立ち返って検討を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、地域の行事(祭りや文化祭)などに参加して交流を持っていきたい。	コロナ禍前は事業所の祭りに地域の方が来られたり、ボランティアや小学生の職場体験の受け入れ、地域の茶の間に出かけるなどのつきあいを積極的に行っていた。現在は、利用者が散歩で挨拶をしたり、広報誌を地域の回覧板に出したり、地域の防災訓練に職員が参加している。感染状況が落ち着けば、地域との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の関係で行っていなかったが徐々に研修生や小学生の職業体験の受け入れを行っていききたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍で行っていないが終息したら運営推進会議で取り上げた検討事項について報告し話し合い意見をもらいサービス向上に活かしていきたい。	利用者・家族の代表者、自治会長、地域包括支援センター職員、法人・事業所職員がメンバーとなり、コロナ禍前は対面での開催で活発な意見交換が行われていた。現在は書面での開催となり、事業所の活動状況を報告している。	書面開催でも意見を出してもらえるように、ヒヤリハットの報告やあらかじめメンバーへの質問事項を添えるなどの会議運営方法の工夫に期待したい。地域包括支援センターなどメンバーの所に訪問して書面を渡すなどの顔が見える関係を築き、さらなる意見交換ができるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はコロナ禍で行っていないが運営推進会議に市町村担当者に出席してもらい利用者の暮らしぶりやホームの実情を伝え連携を深めることに努めている。	市の担当者とは、何かわからないことがあれば電話やメールでやり取りができる関係である。また、市の主催する研修会に職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は施錠せず外出しそうな利用者様には無理に止めずさりげなく声を掛け一緒に出掛けている。	日中は玄関が開けられており、外出をしたい利用者は職員と一緒に出かけている。急に立ち上がって転倒をする可能性がある利用者にはセンサーを用いているが、センサーを外すことができないかを検討している。また、職場内研修で身体拘束、虐待についての勉強会を開催し、職員の理解に努めている。	転倒防止や排泄の不潔行為がみられる利用者のケアについて、職場内だけではなく、法人内のグループホームや地域包括支援センターなど外部からの意見を参考にしながら本人にあった認知症ケアの検討がされることを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止の外部研修に参加し報告会を通して高齢者虐待防止法に関する理解を浸透し厳守に向けた取り組みを行っている。	外部講師からの研修、法人のグループホームの職員が参加した研修会の伝達研修が行われている。利用者への言葉遣いなど不適切なケアを見かけたらその場で注意している。職員へのストレスマネジメントとして、休み希望を取り入れたり、職員の話が管理者が聞いたり、職員がケアに集中できるよう管理者が工夫している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がいるので職員は制度について勉強会を開き情報を共有することになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居計画に際しては重要事項説明書に基づき詳しく丁寧に説明している。また不安、疑問点等は十分に時間をかけて納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族に運営推進会議に出席してもらい意見を伺っている。家族には手紙や訪問時等に何でも言ってもらえるような関係づくりをしている。	利用者からは入浴時などリラックスしているときに意見が出されている。ドライブなど外出への希望が聞かれ、その日のうちに出かけるなどの対応がとられている。家族からは面会や電話連絡時に意見が寄せられている。面会の時期や方法、外出等について意見を受け、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションがあり疑問点や問題点について聞き取りをしている。また月1回、主任会議を行い職員の意見や提案を出してもらいユニット会議に反映させている。	毎月、ユニット会議を開催している。面会の方法や食堂の亚克力板の使用に関することや、外出や物品の購入などについて職員から意見が出されている。また、普段の業務内でも職員から積極的に意見が出されており、意見は管理者が上司に相談し、可能なものは運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い職員の個々の努力や実績を把握し職員処遇へ反映させ向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力を把握し職員処遇へ反映させ向上心を持って働けるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は地域の同業者と交流があり勉強会などの報告を受けている。そして職員は研修内容をサービスの向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況を把握しセンター方式によるアセスメントを中心に本人とコミュニケーションを取りながら安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式によるアセスメントを中心に家族とコミュニケーションを取りながら安心して生活して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査時・相談時、本人や家族の思い状況を確認している。相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たずお互いがいたわりながら和やかな生活が出来るよう声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙などで利用者様の様子や職員の思いを伝え本人を支えていく為の協力関係が築けるよう努めている。	家族には受診の送迎や季節に合わせた衣類交換をお願いしている。現在、感染防止対策として時間を区切った面会を実施しているが、本人と直接携帯電話でやり取りしてもらったり、オンライン（Zoom）での面会もある。担当職員からは毎月、利用者様の様子をエピソードを書面にして利用者の写真を同封して送っており、家族から好評を得ている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が終息したらご近所のご友人に面会に来て頂き昔話などをして楽しんでもらい一人ひとりの生活習慣を尊重している。	なじみの人が面会に来られることはないが、年賀状など手紙が送られており、お礼に電話で話をする方がいる。また、ドライブで利用者の自宅などなじみのある場所に出かけるようにしており、なじみの人や場所の関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について全ての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方に対しても情報が必要であれば提供しきめ細やかな連携を心掛けこれまでの暮らしの継続性が損なわれないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で発する言葉や表情などから真意を推し測ったり、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	担当職員が本人の思いを確認している。入浴場面など本人がリラックスしているときに確認する他、普段のやりとりの中で本人が話した言葉から意向を把握していることもある。本人からの発言は記録に残し、職員全員が共有できるようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を知る事により、より良いケアへと繋がるようご家族から情報を伝えてもらい把握に努めている。	利用前には、主任・副主任が自宅や介護サービス事業所に訪問し、本人の暮らしやサービスの利用状況を確認している。「センター方式」のアセスメントシートを家族や職員がわかる範囲で記載し、これまでの暮らし方を把握している。畑仕事や衣類の裾上げなど利用者がこれまで行っていたことを現在のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録、定期的なケアカンファレンスなどで職員間で情報を共有し利用者様一人ひとりの心身状態など生活の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で本人、ご家族の要望や思いを感じ取り職員全体で共有し介護計画に反映している。面会時や外出時、電話等でも色々意見を話してもらえ関係づくりに努めている。	担当職員、計画作成者が協議して介護計画の原案を作成している。本人の意向を重視したその人らしい、無理をしないで達成できる内容が盛り込まれている。援助内容の実施状況は毎日記録されている。カンファレンスは毎月行ない、達成状況を確認し、必要時は計画内容の変更を検討している。	多職種の連携のもとで支援がされている。今後は、家族や訪問リハビリ職員等による支援内容も介護計画に盛り込み、さらに、チームで取り組む介護計画ができることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に毎日状態変化や暮らしの様子を記入し職員間の情報共有を徹底している。センター方式を活用し介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて緊急の受診・外出・外泊など臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で出来ていないが通常は運営推進会議に地域包括支援センターの職員や民生委員、自治会長が参加し地域の情報を交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方については維持してもらっている。また、かかりつけ医のない方については本人、ご家族の同意を得て協力病院より訪問診療に来てもらっている。	事業所の協力病院の医師が訪問診療に来ているが、これまでのかかりつけ医を継続することもできる。法人の訪問看護事業所が毎週、利用者の状態を確認している。緊急時は、訪問看護に連絡し、医師へ連絡できる仕組みがとられており、適切な医療がスムーズに受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により利用者の日常の変化などを把握し、協力病院との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	回復状況等、こまめに病院、ご家族とも情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認をしている事業所が成し得る最大のケアについて説明を行っている。また重度化や終末期に向けた指針も整備し選択肢を増やすことができた。職員間の意識も統一でき研修会にも参加している。	入居前に事業所でできることを説明している。重度化への対応については、利用者が寝たきりになっても複数の職員がシャワーで入浴の支援を行っている。終末期には指針や関係書類を用意して希望に合わせて看取りを行える体制がとられている。家族には毎月の手紙で状態の報告を行い、時期をみて重度化や終末期に向けた話し合いを行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、急変時のマニュアルは整備され、周知徹底を図っている。今はコロナ禍で難しいが習得できる勉強会やAEDの使用方法や心肺蘇生法の講習会に参加している。	事業所内にAEDが備え付けられている。コロナ禍が落ち着いたら講習会への参加を予定している。急変や緊急時のマニュアルが整備されており、感染症などへの対応も行われている。急変時は訪問看護事業所に連絡し、指示を仰ぎながら支援をしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを整備し毎月利用者様を含めた避難訓練を行っている。年2回の消防署立ち合いの避難訓練を行い指導を受けている。地域の協力体制も築けており食料、飲料水なども備蓄している。	毎月災害時の避難訓練が行われている。その際、利用者も避難をお願いしている。火災・地震を想定、消火訓練、緊急電話連絡を使用する訓練を行っている。また、地域の防災訓練に職員が参加したり、消防署の立ち合いの訓練では地域の方の参加が得られており、地域との協力体制がとられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。利用者様の個人情報や守秘義務について十分理解し責任ある取り扱いと管理を徹底している。	利用者が自己決定をしやすいように、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。排泄や入浴などの介助場面では尊厳に配慮した対応を心がけている。記録は利用者の見えないところで記載・保管しており、プライバシー・個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から一人ひとりに声を掛け生活の中でどのような希望があるのか聞くようにしている。その希望に沿った場面作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調や様子を見て本人と相談しながら希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。自己決定をしにくい利用者様には職員と一緒に本人の意思に沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒にテーブル拭きや盛り付けを行い職員も利用者様の傍で食事を行っている。嫌いな食材にも配慮し楽しみとなるように提供している。	利用者の希望を取り入れ、職員が毎食手作りで提供して、一緒に食べている。利用者からは洗い物、盛り付け、食器を拭くなどできることに参加してもらっている。また、利用者が育てた野菜を使ったり、お寿司の出前や誕生日のケーキ、おはぎやお好み焼きづくりなども取り入れ、利用者がおいしく楽しんで食事がとれるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合わせ確認をし記録もつけている。本人の好きな物を食べやすいようにお出しし、栄養バランスや摂取水分量も職員全員が意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室で口腔ケアを行えるよう声掛けをしたり必要に応じて介助している。定期的に入れ歯洗浄剤を使用し汚れや臭いを予防している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録することにより、一人ひとりの排泄パターンを把握し時間を見ながら声掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表ですべての利用者の排泄パターンの把握に取り組み、時間帯やしぐさなどその方のタイミングを逃さずトイレへの誘導を行なっている。本人への声かけもさりげなく行われている。現在、トイレで排泄される方は半分くらいであるが、継続して自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、排泄パターンを把握している。食事面では牛乳・ヨーグルト・根菜類その他ゼリーや水分を摂って頂いたり散歩や体操をすることで自然排便を促す工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の同意を得てから入って頂いている。入浴時間も制限を設けず一人ひとりに合わせゆっくり入浴したい方への配慮もしている。	午前、午後と入浴時間がとられており、その方の希望に合わせて入浴を支援している。職員が準備から入浴後の整容までマンツーマンで対応し、その方のペースに合わせた入浴が支援されており、利用者にとってリラックスした時間となっている。希望があれば同性介助に対応している。入浴を嫌がる方には無理強いをせず、時間や日にちを変えたり、職員が交代して声かけを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調・表情・希望等に配慮しながら日々の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調に応じて休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方をお手帳に綴じ、職員が把握できるようにしている。本人の状態変化が見られる時は職員間の連携を徹底し協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮できるようなお手伝いをお願いし張りのある日々を過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日など庭先に出たり近所を散歩している。また、本人の希望を聞いて買い物やドライブに出掛けている。	天気や利用者の希望に合わせて、事業所前を散歩したり、玄関先の椅子で日向ぼっこを楽しんだり、ドライブに出かけている。ドライブは利用者の楽しみのある場所に出かけるよう配慮している。コロナ禍が落ち着いた時には果物狩りや水族館などへの外出再開を検討している。利用者にとっては外出が楽しみのひとつとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所有することで安心・満足される方についてはご家族の協力も得て持っている人もいる。買い物と一緒に掛けた際、お金の支払いをお任せするような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて携帯電話を持ち込んでいらっしゃる方もおり、自由にご家族や友人に電話を掛けている方もいる。また、ホームの電話を使って掛けている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節感のある飾りつけや家庭的な雰囲気にし、光や温度湿度調整に配慮している。	季節感のある飾り付けを意識して行っている。また、誕生日や行事などの予定をポスターにして貼り、利用者にもわかりやすく伝わるようにしている。窓が広く、海など自然の景色を楽しむことができる。温度は適切に管理され、共用空間のソファで休んでいる利用者の姿もあり、居心地の良い空間がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに小さなテーブルと椅子を置き写真や花などの装飾で居心地の良い空間を作っている。またリビングにソファを置き仲の良い利用者様同士がくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具を持ち込んで本人が居心地の良いように配慮している。	事業所ではエアコン、クローゼット、洗面台を用意し、それ以外の家具等は持ち込んでもらっている。ベッドやソファ、家族の写真、若いころの作品、お仏壇などなじみの物、大切にしてきた物が持ち込まれている。居室の清掃については、掃除機かけが可能な利用者にはお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが得意なことを活かしてお手伝いやレクリエーションを行い楽しみながら自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				